

3 Rの概念を組み込んだ排水処理技術開発の促進に関する調査

50百万円(20百万円)

水・大気環境局水環境課

1. 事業の概要

排水処理によって発生する処理生成物のリユースを促進するためには、搬出側と受け入れ側の品質の条件整理やその流通経路の確保などが課題となっている。また、排水処理は有害物質を含む大量の廃棄物が発生するという課題も抱えている。

本調査では、これらの課題解決に向けた各業界の取り組みを支援するため、産官学一体となった意見交換や技術開発を実施するための検討会を設置する。また、特に技術開発が困難な温泉排水処理技術については、技術開発を促進するための排水調査及び現地実証試験を実施する。

2. 事業計画

調 査 項 目	H 2 0	H 2 1	H 2 2
処理生成物のリユースの促進	-----	-----	
リサイクル可能な吸着剤等の技術開発	-----		
材料、工程、排水処理の見直しにともなうリデュースの促進	-----		
温泉排水実態把握のための排水調査	-----	-----	
排水処理技術現地実証試験		-----	

3. 施策の効果

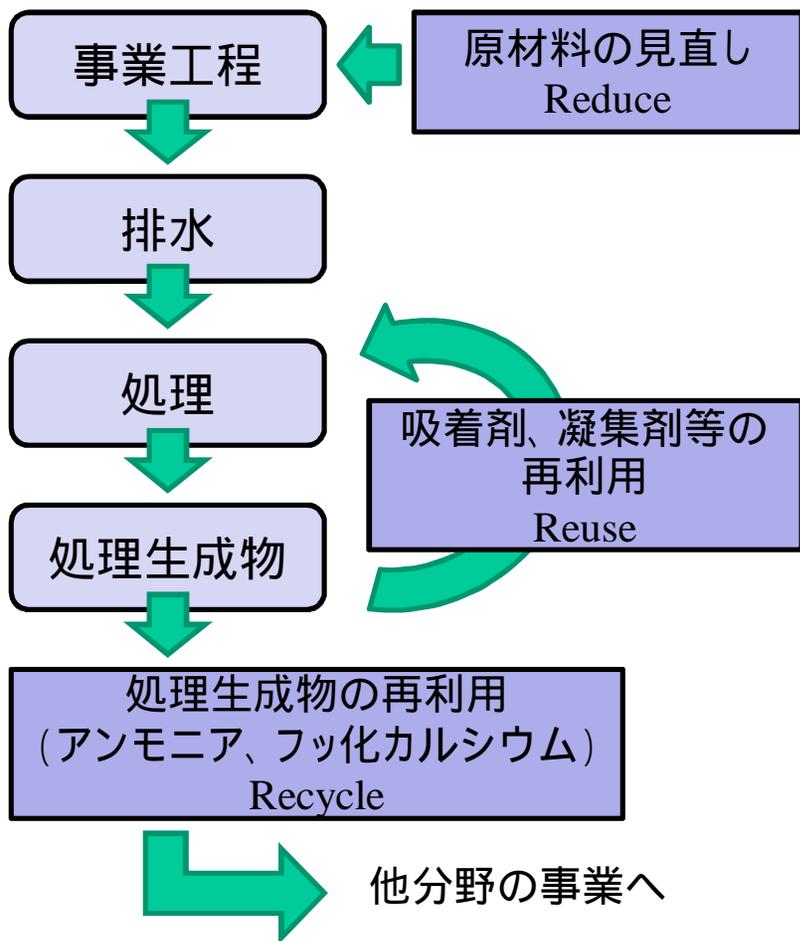
3 Rが促進されることにより、処理廃棄物の減量等による処理費用の軽減が可能となり、これまで対応が困難であった業種において排水対策が促進され、暫定排水基準の撤廃や強化が可能となる。特に、アンモニアやフッ化カルシウムは高いリサイクル率が見込まれる。また、既存のデータが少ない温泉排水の実態を調査することにより、これまでほとんど対策が行われていなかった温泉関連施設における有効な対策が検討可能になる。

4. 備 考

調査費 50百万円 ・排水処理技術開発促進調査 50百万円

# 3Rの概念を組み込んだ排水処理技術開発の促進に関する調査

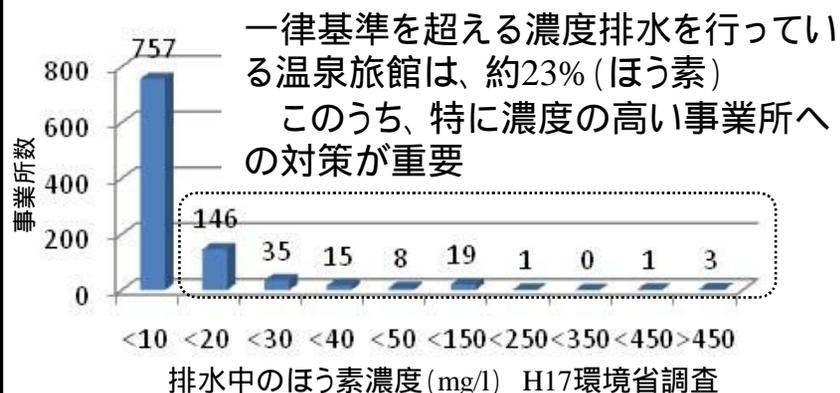
- 排水処理に伴い発生する、廃棄物の処理費用等が原因で一律排水基準を達成できない業種が存在。
- 材料、工程、処理方法等を見直すことで、排水量または廃棄物発生量を削減(リデュース)。
- リサイクル可能なものについては、品質の向上、流通経路の確保などにより有価物としての売却等を促進。
- 凝集後または吸着後の廃棄物から、処理物質を分離し、凝集剤または吸着剤としてリユースの可能性を検討。
- 温泉排水実態調査および現地実証試験
- 排水処理に係る負担を軽減し、一律排水基準の達成をめざす。



## 温泉施設特有の課題

排水中の成分が多様  
既存技術による排水処理の阻害要因になることも多い

温泉旅館は規制されているが同じ温泉を使う日帰り温泉施設等は規制対象外 業界に不公平間がある



排水実態調査と現地実証試験が必要